新たな動きが次々と

被爆から81年、あの惨劇を忘れたかのごとく進められている核開発と非人道行為―被爆者の証言はいっそう大事になってきています。

札幌市の被爆者派遣事業は30校を超えました。諸団体にも、若い世代にも、いま新たな動きが起きています。被爆二世の話や札幌南高校定時制生徒の朗読劇などをあわせて実施する学校も出てきています。

多彩な取り組みが試みられているようです。

被爆者の話を聞く

ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会が主催した被爆者と語るカフェ（オンライン）が9月27日開催されました。語る被爆者は札幌から、司会する20代の若者は九州から、事務局担当は広島と東京からと、全国からの参加で、金子廣子さんの被爆とその後の人生を話してもらい交流をしました。

当日の参加は11名、9歳から70代までの幅広い参加者でした。最初に金子さんの被爆体験を読み合わせ、そのあと金子さんに証言してもらい交流を深めました。

参加者（受け継ぎ手）の感想もリンクから見ることができます。

https://kiokuisan.org/cesium/#01m3vvwhvq87xmqffwcspyfm2p

また被爆者と語るカフェ関連は「全国証言マップ」で検索すると表示できます。



東川下小学校の取り組み

被爆二世**川去裕子**

10月29日、札幌市白石区の東川下小学校で、6年生の「平和について」の学習発表会が行われました。

学習発表会を念頭において、担任の先生たちは、社会の学習も順序を入れ替えて実施、まず戦争についての歴史を学習し、ついで被爆者大村一夫さんの話を聞き、ヒバクシャ会館の見学、被爆二世の話を聞く、と順番を計画。

10月7日、被爆二世の私は東川下小学校へ。まず19４５年の日本の状況と広島について説明、ついで父の家族のことを父の日記の記述をたどって話をし、最後に「被爆者を二度とつくらない」「核兵器をなくしたい」、核兵器禁止条約が国連加盟の半数以上になる101カ国で締結されていて、核兵器をなくすための手段はできていると話しました。

続けて、「日本は、核兵器禁止条約には参加していない」と話した時、静かに聞いていた子どもたちのあちこちから「えっ」と声があがりました。核兵器をなくしていくという気持ちが伝わっていると思い感激しました。

また、「（被爆者がいなくなったとしても）二世とか三世とかで被爆のことは伝えられると思う」と話してくれた子もいました。





学習発表会は憲法前文の暗唱から始まりました。ところどころで、子どもたち一人ひとりが考える「平和」について、「戦争がおこなわれていないこと」「核兵器をなくすことが大切だと思う」「学校で勉強したり、友達と遊んだり日常生活を送ること」などそれぞれの言葉で語られていました。

東京大空襲、食料事情、札幌への空襲と学習してきたことを発表し、原爆について、爆風の被害や放射能の被害、黒い雨の被害、多くの死者をだしたことをスライドや劇などで知らせていました。中では核兵器禁止条約についても触れられていて、「こどもたちが聞いた話は入れたい」ということになったと聞きました。発表の最後は合唱で締めくくられました。

（写真は会館の展示を見学に来た生徒たち）